

質問・意見提出用紙
(武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画進捗状況について)

資料3
令和7年9月1日
武蔵野市地域自立支援協議会

No	事業番号	事業名	ご質問・ご意見	事務局
1	2	まちぐるみの支え合いの仕組みづくりの推進	【説明（進捗状況）】 ・地域福祉の会や地域で活動する障害支援者団体へ向けて、心のバリアフリー出前講座を行った。（各1回） →細かなことで恐縮ですが、「市民こころの健康支援事業」の「こころの出前講座」と混同しないためにも、以下の文言を事業番号6と同様にしたほうがよいと思いました。 心のバリアフリー出前講座 ⇒ 心のバリアフリー啓発事業（出前講座）	ご意見として承り、追記します。
2	2	まちぐるみの支え合いの仕組みづくりの推進	今期の計画が走り始めて以降、「心のバリアフリー出前講座」について内容を変更をした部分を教えてください。他課との協業はいくつ取りの課と組まれたか教えてください。	基本的なコンセプトは変更していませんが、主催者と事前相談を行う中で、より多くの方に周知啓発が行えるような方法の検討を随時行っています。 具体的に協業したのは1課です。他に、助言等は随時行うようにしていますが、統計は取っていません。
3	4	地域共生社会の更なる推進	「～その人の状況にあった支援」とは、どのような支援を指しているかと、講演会との関係性を教えてください。	国の障害者基本計画(第5次)において、基本的な考え方の中に、「障害特性等に配慮したきめ細かい支援」という項目があり、「障害者施策は、障害特性、障害の状態、生活実態等に応じた障害者の個別的な支援の必要性を踏まえて策定及び実施する。その際、外見からは分かりにくい障害が持つ特有の事情を考慮するとともに、状態が変動する障害は、症状が多様化しがちであり、一般に、障害の程度を適切に把握することが難しい点に留意する必要がある。」と記述されています。障害福祉における支援において、これらの点を反映させていくことが肝要であると考えています。 講演会の実施や心のバリアフリー啓発事業(出前講座)は、障害についての理解を深め、自分と異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションをとる力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を育てるという点に資すると考えています。
4	5	障害者差別解消の推進	全庁内に向けての周知啓発をされた内容はどのような内容か、方法はどのように行われたか教えてください。それにより、市の窓口等で慣例や習慣としてされてきた差別的な対応への改善があったか教えてください。	合理的配慮の提供に関する具体例について、資料を配布し講義形式で実施しています。 慣例や習慣とされてきた差別的な対応については把握していませんが、「市が提供するサービス等において、バリアとなっているものがないか」「合理的配慮を提供するうえで、どんなことができるか」という視点を持つように取組んでいます。
5	6	心のバリアフリーハンドブックの活用と出前講座の充実	～市民や事業者などが様々な障害の特性についての理解を深めるように周知啓発を実施します。」とありますが、特性というと医学モデル的な内容に捉えられやすくなってしまうと思いますが、障害の社会モデルでの捉え方をどのような内容で説明されているか教えてください。	改定された心のバリアフリーハンドブックの3ページにおいて、下記のとおり説明されています。 「障害があると、多くの人が当然にできることができないこと、勘違いされること、理解されず困ったり、つらい思いをしたりすることがあります。「社会モデル」とは、「障害」は社会(モノ、環境、人的環境等)と個人の心身機能の障害があいまって作り出されているものであり、その障壁(バリア)を取り除くのは社会の責務であるとし、社会全体の問題として捉える考え方です。「社会モデル」は平成18(2006)年に国際連合で採択された「障害者権利条約」において考え方が示され、平成23(2011)年に改正された「障害者基本法」においても、この考え方が採用されているなど「障害」の概念は「医学モデル」から「社会モデル」へと変化しています。」
6	6	心のバリアフリーハンドブックの活用と出前講座の充実	ハンドブックの活用とあわせて、一緒に配布されている物があるかどうか教えてください。	出前講座の内容に応じて、講師が資料等を用意し、補足的に配布することがあります。
7	8	情報保証の充実	市報などの改善をありがとうございます。他にも「テキスト版」「わかりやすい版」や「ルビ」「多言語」対応等、情報へのアクセシビリティが進むよう、当事者の声を聞き、更なる充実につながるようと思います。	ご意見として承ります。

No	事業番号	事業名	ご質問・ご意見	事務局
8	10	在宅人工呼吸器使用者等への災害時個別支援計画の作成	「訪問看護ステーションと連携して・・・」と記述がありましたが、以前のように保健所と連携して作成していくことは検討していますか？また計画書は常にブラッシュアップしたり、実際に計画書に基づいて災害時の訓練などを本人、家族、関係者が実施していくことも必要だと思われます。今後、計画書の作成だけでなく、訓練、見直しを随時実施していくことはお考えでしょうか？またどこがイニシアティブを取り、進めていくのでしょうか？	市区町村等の基礎的自治体が災害時個別支援計画を策定することとなっています。市では、対象者の状況を把握している訪問看護ステーションに委託し、計画の作成・定期的な更新を実施しています。
9	11	地域移行・地域定着の支援体制の強化	【計画の記載】 ・長期入院者のいる精神科病院へのアンケート結果をもとに、退院が可能な方に対して、具体的な地域移行の支援を行います。 →上記の「アンケート結果」とは、令和4年度に地域移行部会が実施したアンケート結果のことを指しているのか、これから部会で実施する予定の「退院に関するニーズ調査」のことを指しているのでしょうか。令和4年度のアンケート結果のことであれば、何か具体的に動いていることがあれば教えていただきたい。	令和4年度に実施したアンケート調査や地域移行部会における検討内容をもとに動機付け支援の必要性や実施方法について検討します。
10	11	地域移行・地域定着の支援体制の強化	【説明（進捗状況）】 ・自立支援協議会地域移行部会において長期入院者のいる精神科病院に対するアンケート調査を実施する予定であり、この結果や近隣自治体の状況等を参考にして地域移行・地域定着の実施方法を検討する。 →上記の「地域移行・地域定着の実施方法を検討する」の部分について、部会では地域移行・定着の実施方法ではなく、動機付け支援の必要性や実施方法を検討していたという認識でおりますが、いかがでしょうか。	ご指摘のとおりですので、「令和4年度に地域移行部会が実施した長期入院者のいる精神科病院に対するアンケート調査や地域移行部会における検討内容をもとに動機付け支援の必要性や実施方法について検討する。」と訂正します。
11	11	地域移行・地域定着の支援体制の強化	説明（進捗状況）には、「～協議した」「～検討する」としかなく、とても残念に思います。市として地域移行を進める！という姿勢と体制がとても必要に感じています。	事業を実施するには具体的なニーズの把握や必要性や実施方法の検討、予算の確保、実施要項等ルール決定、受託事業者の選定等に時間を要するためこのような記載となります。
12	14	包括的な相談体制の機能強化と各機関の役割の明確化	「地域活動支援センター事業の委託契約に含まれていた相談支援事業については、令和7年度より別契約として役割を明確にした。」とあります。どのように役割を明確にしたと考えられているのか、相談支援体制の機能強化の視点から教えてください。	令和6年度までは地域活動支援センター事業の委託契約の中に障害者相談支援事業が含まれており、地域活動支援センター事業の利用者のみが対象の障害者相談支援事業と捉えられることもあったため、障害者相談支援事業を別契約とし、仕様書へ市の必須事業である障害者相談支援事業を委託することを明記することでその役割を明確にしました。障害者相談支援事業の機能強化としては少額ですが令和7年度から委託料を増額しております。
13	14	包括的な相談体制の機能強化と各機関の役割の明確化	【説明（進捗状況）】 ・地域活動支援センター事業の委託契約に含まれていた相談支援事業については、令和7年度より別契約として役割を明確にした。 →文言の記載を正確且つ統一（事業番号34説明）した方がよいと思いました。 相談支援事業 ⇒ 障害者相談支援事業	ご指摘のとおりですので、「相談支援事業」との記載を「障害者相談支援事業」と訂正いたします。
14	14	包括的な相談体制の機能強化と各機関の役割の明確化	【説明（進捗状況）】 ・障害者福祉センターにおいては、専門性のある相談員の人材確保を行った。 →地域活動支援センターの進捗についてもご説明いただければと思います。	障害者相談支援事業を委託する地域活動支援センターの機能強化としては少額ですが令和7年度より委託料を増額しております。
15	15	相談支援事業所への支援	「相談支援事業所で構成する連絡会の設置に向けて、連絡会の実施内容等について検討を行った。」とあります。現段階での具体的な検討内容はどのようなものか教えてください。	まだ、具体的な内容を示すことができる段階ではありません。なお、市が開催する会議への出席が多く本来業務に支障が出ているとのご指摘もあり、相談支援事業所間の効果的な連携の方法を検討する必要があると考えております。
16	19	ゆるやかで多様な就労も含めた障害者雇用の推進	ご説明にある促進を図っていただいた結果、どのような取組が例が増えたか、もしくはなかったのか教えてください。	庁内実習を経て雇用につながった事例はありますが、各企業の具体的な取り組みまでは把握しておりません。
17	22	通所後や放課後等の居場所の確保	ご説明の文からは、通所後や放課後等の居場所の確保が拡充されたのかどうか分かりづらかったので、具体的にご説明いただけますでしょうか。特に通所後の居場所については、希望の声を多く聞いています。	市には、事業所から新規開設等の相談について、様々な相談が寄せられます。その際に、移動支援や日中一時のニーズが高いことを説明し、利用できる補助等について案内することで、各事業者に開設に向けた検討をお願いしています。

No	事業番号	事業名	ご質問・ご意見	事務局
18	24	ネットワークを活かした地域生活支援拠点等の段階的整備	拠点の登録において、その役割を利用する本人や家族に伝えるための工夫が必要なケースが多くあると思われます。利用登録に至るまでに必要な手続きが困難だと思われるケースにどう対応していくのか、基幹相談支援センターとしてお考えがあれば教えてください。 また、拠点事業の機能を担う事業所は市内にいくつかありますが、その大半は「体験の機会・場」の機能を持つ事業所であります。今後は、「体験の機会・場」を担う事業所がどのように拠点事業を展開していくのか、またニーズが高いであろうと予想される「緊急時の受入・対応」を担う事業所をどのように増やしていくのかなど、お考えがありましたら教えてください。	毎月開催する拠点会議にて本事業に関わる事業所と市が事業内容や実施方法等を検討しております。登録にご理解いただけないご家庭についてはこの会議の場やご本人をよく知る事業者や市の地区担当の間でより効果的な進め方を検討しており、これが最善の方法と考えております。 緊急時の受入れ等についても拠点会議にて協議しております。現状では新たな事業者の参入はありませんが、市の実施するショートステイ事業や短期入所等の効果的な活用の研究や近隣市にある利用可能施設のリストアップ等を進めるべきであると考えております。
19	27	住居に関する取り組み	【説明（進捗状況）】 「武蔵野市あんしん住まい推進協議会」との連携について、「障害者の住宅に係るニーズについて情報共有した」と有りますが、実際に住宅探しに困難を抱える障害者にどのように情報を届け、家主や不動産仲介業者に障害に対する理解を深めてもらう取り組みを行うか、具体的な取り組みを進めて欲しい。そのためにも、自立支援協議会の住まい部会との連携を深めて欲しい。	住居に関する取り組みについては、ご指摘のとおりと考えています。より具体的な取り組みを進められるように、住まい探しについて、随伴して支援を行える仕組みについて、庁内で検討を進めています。
20	27	住居に関する取組み	障害のある方の一人暮らしについて、どのように協議されているか教えてください。	No.19において回答。
21	28	通所先の確保に向けた検討	ご説明の文からは、通所先の確保が拡充されたのかどうか分かりづらかったので、具体的にご説明いただけますでしょうか。適正に合わせた通所先を調整したとありますが、武蔵野市内でどのくらいで、市外でどのくらいか、どのような調整が行われたか、教えてください。特に通所後の居場所については、希望の声が多くあったと思います。	令和6年度は、特別支援学校に通う武蔵野市民の高校3年生であって、令和7年4月から武蔵野市内の生活介護、就労継続支援B型の利用を希望される方の通所先を、特別支援学校や相談支援事業所、各通所先となる事業所と連携し、その通所先を調整しました。その結果、ご希望のあった15名全員の通所先（11事業所）が決まりました。
22	34	市民こころの健康相談事業の推進	【説明（進捗状況）】に以下の文面を追記していただければと思います。 →・教育機関や各種団体から依頼のあったメンタルヘルスに関する出前講座を行った（令和6年度6件）。	ご意見として承り、追記します。
23	35	在宅避難の推進	「在宅避難のメリットや支援体制を周知啓発していく」とありますが、市内の障害者グループホーム利用者に対する支援について、具体的な対応を検討していますか？事業所への聞き取りなどは検討されていますか？	現在のところ、検討や聞き取りは実施していません。事業所におけるBCP計画においてどのような対応がなされているかについて、実態をお伺いしたいと考えております。
24	35	在宅避難の推進	在宅避難時における様々な支援体制の周知啓発はされたかどうか教えてください。また、その内容を教えてください。	市報や広報誌「つながり」において、在宅避難等における周知を実施しました。 つながり179号「在宅避難に関する講座の案内」 つながり181号「家具転倒防止金具等の購入費用を補助」「防災用品の購入」 こころのつながり23号「防災用品の購入」
25	36	在宅人工呼吸器使用者等への災害時個別支援計画の作成【再掲】	作成件数：7件（新規3件、更新修正4件）とありますが、その母数は何件か教えてください。作成について年齢等との関係はあるかどうか教えてください。	転出や入院等もあり、その時時点で件数は変わりますが、10件前後です。 年齢について相関関係はないと考えますが、比較的高齢の方が多いです。
26	39	ペアレントメンターの活用	ペアレントメンターを担われている方への研修やケアについて、その体制を教えてください。	ペアレントメンターは、東京都ペアレントメンター事務局（運営：東京都発達障害者支援センター）に派遣を依頼しており、養成研修も同事務局で実施しております。
27	40	ピアサポーターの育成の検討	【説明（進捗状況）】 ・相談支援事業を委託する地域活動支援センターへピアサポーターの雇用を促すと共に、関係機関に対して東京都が実施するピアサポーター養成研修を周知した。 →文言の記載を正確且つ統一（事業番号34説明）した方がよいと思いました。 相談支援事業 ⇒ 障害者相談支援事業	ご指摘のとおりですので、「相談支援事業」との記載を「障害者相談支援事業」と訂正いたします。
28	42	相談支援事業所への支援【再掲】	事例検討会（困難事例検討会）では、毎回様々な専門職と一つの事例を深く掘り下げ、意見交換し、支援のアイデアをいただくことが出来、大変有意義な機会であると思います。 近年の事例の傾向として、事例の中心にいる当事者だけでなくその家族、そして家族との関わりに課題があると思われるケースが増えていると感じます。当事者の課題だけでなく、いわゆる多問題家族の支援に長けている専門家からスーパービジョンを受けることができればと思います。そういった視点でスーパーバイザーの選定（心理士など）を検討して頂きたいと思います。	スーパーバイザーについてはご意見として賜りました。今後も有意義な事例検討会となるよう検討いたします。

No	事業番号	事業名	ご質問・ご意見	事務局
29	45	肢体不自由児等を対象とした放課後等デイサービス事業の安定した運営	ご説明である内容は事業実施サイドからの視点だと思うのですが、利用について待機・もしくは断られている件数がありましたら教えてください。	待機等はありません。
30	47	地域療育体制の強化	巡回相談先が、学校は特別支援学級のための記載となっていますが、他の学級にも障害のある児童生徒さんがいると思いますが、巡回先について検討されたか教えてください。	市内小中学校特別支援学級のみとなっており、他の学級への巡回は検討しておりません。
31	48	包括的支援体制の整備	「切れ目のない支援を継続して実施できるよう、体制等について検討した。」とありますが、小中高それぞれの不登校児に対する支援は検討されていますか？教育機関や母子保健分野等と連携を図るなかで、福祉的なサポートを必要とする子どもがいるかもしれないという視点で意見交換される機会がありますか？	不登校児に対しては教育部や子ども家庭部を中心に支援を実施しており、関係部署が同じ建物に入ることにより連携が深まると考えておりますが、その支援内容について武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備庁内検討委員会の場にて検討されるかについては現時点では決まっていません。なお、福祉的なサポートを必要とする子どもがいる前提で協議を進めております。
32	48	包括的支援体制の整備	庁内検討会議で検討された内容とその方向性について教えてください。また、子どもの権利条例に関わる「子どもプラン武蔵野」との関係性と、子どもの権利を保障するための支援体制について協議をされているかを教えてください。	令和6年度は主に複合施設の建物の設え等を中心に検討されました。武蔵野市子どもの権利条例と子どもプラン武蔵野の関係ですが、条例を推進する計画が子どもプラン武蔵野となります(子どもプラン武蔵野にはこの条例を推進する計画の他子ども・子育て支援事業計画等も含みます)。子どもの権利に係る支援体制に関しては、子どもの権利擁護センターが複合施設に入り関係機関と効果的に連携する方向で検討します。
33	49	放課後等デイサービスの質の向上	武蔵野市内においても放課後等デイサービスがとても増えたと思いますが、事業番号22・28であげられている課題について、どのように解決していくかを考えながら充実を図られているかありましたら教えてください。	No.17、21において回答。
34	99	評価全般	進捗の評価が全て『○』となっていますが、全項目共に課題もなく予定通りに進捗しているという認識でよいでしょうか。	進捗に差はあるかもしれませんが、取り組みを進めていると認識しています。